

海外研修報告書 6月

循環農学類

喜多遼太郎

今日は29.8℃でした。毎日汗だくになりながら毎日酪農に向き合っています。

デンマークは今年、1000年に1度の異常気象となっています。雨が降らず、気温が高い。その影響で牧草の不作が大きな問題となっています。私の配属先牧場でも例年の5割ほどの収量しかない状況です。さらに他の研修生の配属先の有機酪農を営む牧場では例年の2割ほどの収量しかなく、もうすでに今年の1番草を給餌しているという話も聞いています。



2番草収穫

農場では牧場主や従業員の方とコミュニケーションをとりながら楽しく仕事をする事ができています。食事の時間も農場の話、牛の話をする事が当たり前になり、やっとこの牧場の一つの歯車として動くことができるようになったのではないかと感じています。

先月、嬉しい出来事がありました。隔週土日は私一人ですべての仕事をこなしているのですが、体調の悪い牛の状態、その牛に対しての治療、新たに体調の悪い牛の情報など、牧場主に報告した時、“good job taro!”と褒めてもらうことができました。小さなことですが、頑張ろうと思えた瞬間でした。



今月はデンマークの共進会へ行ったり、農場視察、デンマークに住む日本人を支える活動をしている団体の説明会に参加したりしたのですが、元酪農学園大学特任教授である高井久光さんが書いた“後継者不足はデンマーク農業の大きな課題ー若者が可能性を試せる農業を求めてー”という資料を読んだことについて書きたいと思います。

世代交代、親から子が農場を継ぐ際、デンマークでは“買い取”らなければなりません。今、多くの酪農家が自らの農場を売りに出しているが、買い取る者（若者）がほとんどいないのが現実で、原因の1つがその価格です。高すぎる価格、さらに銀行からお金を借りることの難しさなどが相まって、この担い手不足は大きな問題になっています。

そんな記事の中に印象的な文がありました。

“大きな農場を引き継ぐには農場の作業、人事の仕事をして経営などすべてに優れた能力が求められる。社長であり、同時にあらゆることに精通しなくてはならない。農業経営者に何が求められるかを学ぶ最も良い方法は、経験を積んだ年配の農業者の下で経験を積むことだ。（農村青年コンサルダント ドーテ・クヴィストゴー）”

今、多くのことを経験することの重要性、今の牧場主の下で研修を行えていることの有意義な時間などを改めて考えさせられる一文でした。



まだまだ私が知っているデンマーク農業とはほんの1部にしかすぎません。会話を通している色々な話をすることが、体を動かし学ぶことと同じくらい、もしかしたらそれ以上の学びにつながるのではないかと感じました。日々の作業は力仕事も多く大変なこともあります。仕事に慣れてきた今、流れ作業のように仕事をこなしている時間が増えてきました。それはいいことであると思いますが、考えることを止めてしまっている時間でもあると感じます。もう一度気持ちを引き締め、新しいこと、知識を求め続けていきたいと思います。